

「地図と方位磁石」

そよ風が気持ち良い天気の後、相談に伺ったお宅の居室で小さなテーブルを見かけた。そこには色あせて古ぼけた一枚の地図と年季の入った小さな方位磁石がひとつ。なぜか懐かしい風景となって僕を立ち止まらせた。

「うちの夫は地図が好きでね。いつもそこに座って地図を眺めては、いろいろと考え事をしていたのよ・・・。」

その昔、僕も地図と方位磁石を持って旅をしていた。道に迷わず、自分で決めた目的地に到着できるように、いつも地図と方位磁石を持っていたことを思い出した。

街灯の無い真っ暗な夜道でも、道を間違えて迷ってしまった時でも、目的地の方角は必ず指し示してくれる。

ふと一瞬、今の自分の歩んでいる道は、何処に向かって進んでいるのかを自問自答していた。

「旦那さんは何処に行きたかったんですかね・・・。」

「さあ～ね～・・・(笑)」

窓から差し込むオレンジ色の光に照らされた、古ぼけて色あせた一枚の地図と年季の入った小さな方位磁石が、希望の光を放って輝いていた。(2021年6月)

